

ICTユニットの概要

- 「ICTユニット」(アタッシュケース型)は災害時に迅速に通信ネットワークを応急復旧させることが可能な通信設備。
- 東日本大震災での教訓を踏まえて、総務省がNTT等に委託して研究開発を実施(H23~25年度)し、H26年11月に実用化。
- 被災地における必要な通信手段の確保及び支援のため、自治体等からの要請に応じて、貸し出しを実施。

<機器構成>

バッテリー (本体、Wi-Fi用)



(容量：22,000mAh)
(重量：580g)
※2本装備

ユニット本体 (IP電話用構内交換機、 情報処理サーバ)



(重量：約500g)

Wi-Fi アクセス ポイント



(重量：約100g)

ゲートウェイ (外線と接続用)



(重量：約500g)

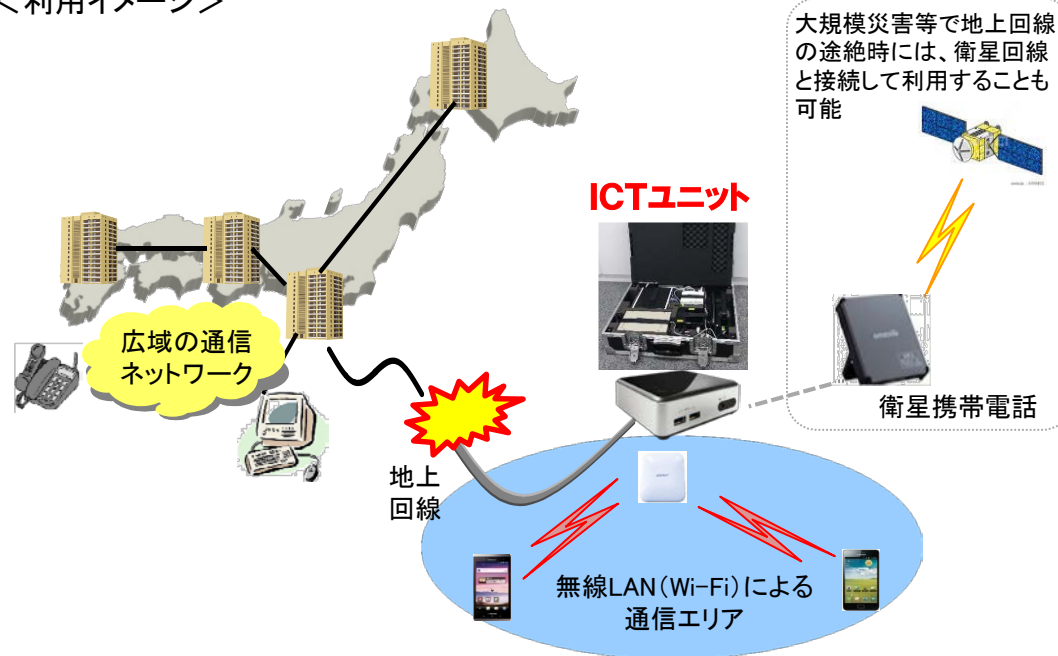
その他(衛星電話接続アダプタ、
接続ケーブル、その他)
(重量：約2kg)



※トランカーケースに格納

重量：約8kg程度

<利用イメージ>



【ICTユニット(アタッシュケース型)の特徴】

- 1) 普段のスマートフォンやタブレットを活用した音声通話とデータ通信を提供(直径約100m範囲)
- 2) 衛星回線・インターネット等との接続により、遠隔地との発信が可能
- 3) キャリーケースで持運べ、ワンボタンで利用開始が可能
- 4) 搭載バッテリー(22,000mAh)で連続8時間使用可

ICTユニットの特徴

内線通話(発信/着信)が可能

普段使っている電話番号のまま発信、受信が可能です。



普段の電話番号、電話帳が利用可能

普段のスマホ等の番号が自動登録できます。
※SIMカードがある場合に限りです

普段のスマホ等の電話帳が使えます。



ファイル共有が可能

ファイルの種類を問わず、IP-PBX内にファイルを共有・保存ができます。



○Windowsは、エクスプローラで利用可能です。
○Androidは、ES File Explorer等のフリーウェアで利用可能です。

アプリの簡単なインストール

アプリを登録していなくても、IP-PBXからダウンロードすることができます。
※Androidに限りです。

